2025/5/19（月）

朝の礼拝

聖書　申命記 8 編 2-10 節（旧約聖書 278 頁）

　あなたの神、主がこの四十年の間、荒れ野であなたを導いた、すべての道のりを思い起こしなさい。主はあなたを苦しめ、試み、あなたの心にあるもの、すなわちその戒めを守るかどうかを知ろうとされた。そしてあなたを苦しめ、飢えさせ、あなたもその先祖も知らなかったマナを食べさせられた。人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きるということを、あなたに知らせるためであった。この四十年の間、あなたの着ていた服は擦り切れず、足は腫れなかった。人が自分の子を訓練するように、あなたの神、主があなたを訓練することを心に留めなさい。また、あなたの神、主の戒めを守り、その道を歩み、主を畏れなさい。あなたの神、主は、あなたを良い地に導き入れようとしている。そこは、平地でも山でも川の流れがあり、泉や地下水が溢れている地であり、小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろの実る地、オリーブ油と蜜の取れる地である。不足なくパンを食べることができ、何一つ欠けることのない地であり、石は鉄を含み、山からは銅を掘り出せる地である。あなたは食べて満足するとき、その良い地をくださったことを覚えて、あなたの神、主をたたえなさい。

主の訓練

　新約聖書のマタイによる福音書で、イエスは「野の花」の美しさを「栄華を極めたソロモンでさえ」と比較しています。旧約聖書の時代、羊を連れて旅した先祖は大国と肩を並べ、絢爛豪華な宮殿、十戒を納める神殿も建立し、それこそ栄華を極めたと思われました。しかしその歴史はわずか百年で閉じ、彼らはすべてを奪われ、捕囚の民となりました。

今日の申命記はちょうどその頃に編集されたものです。彼らは民族の原点、奴隷だった頃のエジプトを脱出し、荒れ野を四十年旅したことをふり返っていたのでした。今も荒れ野で朝露の雫からできるマナを口にして飢えを凌いだ苦難の旅を思い出していたのです。そして苦難の渦中で授かった十戒、神の言葉の重さを再認識しているのです。

十戒の前半は神と人間との関係です。そして後半は人間同士の関係が書かれています。学院聖句の主なる神を愛しなさい、隣人を自分のように愛しなさいにつながります。喜びと感謝を献げ、神に愛されている者は共に生きなさいという意味です。それは困難にあってこそ確かめられると言っているのです。

盛者必衰、栄枯盛衰とも言われるように、この世の栄華は川の流れに浮かぶ泡のように生まれては消えていきます。でも今日の聖書にあるように苦難は嘆きでは終わらない、神の訓練、導きだと信じ、喜び、感謝する日を迎えると伝えています。人間の栄華と愚かさの繰り返しにも、神はわたしたちを愛し、導き、心にその教えを刻んでいます。

（しばらく黙祷しましょう）

慈しみ深い主よ、恵みの雨と生き生きとした青葉の頃となりました。インターハイ、英検に挑み、共に力を合わせる体育祭を迎えます。修養会やスタディー・ツアーで養った学年のチームワークが花咲く時です。どうか英和生たちの成長を祝福してください。また今、病にある方々を覚え、ひとときでも早く共に感謝を献げる日が来ますようにお守りください。今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン